

～宮大生のための交換留学～ (台湾)・(国立政治大学) 留学報告

教育文化学部 学校教育課程 初等教育コース専攻 2年 (氏名 鈴木晴香)

○留学先:台湾・(国立政治大学 華語文教學中心)



國立政治大學
華語文教學中心

○留学期間:2013年8月～2014年3月(政治大学:前期9月～1月、後期3月～7月)

華語文教學中心 (大学の附属の中国語語学学校)

秋学期: 9月2日～11月22日

冬学期: 12月2日～2月21日

春学期: 3月3日～5月23日

夏学期: 6月3日～8月22日

○渡航時の学年: 2年次

○渡日前の手續について

・留学に至った経緯について:

私は、大学1年生のときに初修外国語で中国語をとっていました。その時の先生方の影響を受け、中国語を勉強することが大好きになりました。留学する前までは、大学の授業以外にも毎回の中国語検定にむけて自分でこつこつと単語や文法の勉強をしたり、宮崎大学に交換留学に来ている中国語圏の留学生たちと言語交換をしました。

1年生の春休みのとき、今まで学んだ自分の中国語力を試したい、直接中国へ行ってたくさんの中国人の友達と交流したい、何より様々なイメージがある中国を自分の目で直接確かめ、現代中国の生活に触れてみたいという興味から、異文化交流体験の授業をとり、1週間ほど南京、蘇州、上海へ行きました。実際にあちらへ行ってみると、「日本のメディアの情報だけで中国とはどんな国か決め付けてはいけない、本当に活気がある成長を続けている大きな国だ！」と圧倒され、たくさんの刺激を受けました。しかし、私の語学力はというと、今までたくさんの時間をさいて勉強してきたにも関わらず、中国語を読んでなんとなく意味を理解することしかできず、現地の人たちと自力でコミュニケーションをすることができず、悔しい思いをしました。

もともと英語以外の他の言語も話せるようになりたいと思っていたので、「せっかくここまで勉強した中国語を無駄にしたくない！中国語母語者と中国語で意思疎通ができるようになりたい！」と思い、1年間の留学をすることを決めました。

[留学時期・学校の決定]

中国から帰ってきたら、さっそく宮崎大学と交換留学提携校の資料を調べました。中国語圏の提携校はいくつか大学があるのですが、異文化交流体験で行ったことのある南京農業大学へ留学することが私の一番の希望でした。そこで、宮崎大学の時間割を4年生の分まで作り指導教員の先生と留学の時期を決め、中国語の先生からそれぞれの大学についての紹介を受け一緒に留学先の大学を決めていただきました。私の宮崎大学での専門課程と留学時期を考慮したら、2年

～宮大生のための交換留学～

次後期から留学することが1番適切な時期であり、その時期に留学できる大学は台湾の国立政治大学しかありませんでした。留学までの準備期間が半年を切っていたにもかかわらず、先生方がたくさんの情報を提供してくださり、親身になって提出資料の準備を手伝ってくださったおかげで、無事順調に留学を始めることができました。

私のように学校教育課程の学生は教育実習があるため、留学をすると自動的に卒業が遅れてしまいます。留学するには、卒業を延期してまで留学したいか、自分の最終目標は何かしっかり考え明確な目標を持つ必要があると思います。私個人的には、学校教育課程の学生の方は、2年後期もしくは3年前期から留学を始めることをおすすめします。

・大学での手続について:

留学先の大学が決定したら、留学担当の先生のもとへ行き申し込み手続きの資料などをもらいました。政治大学の場合、申請手続き(華文中心や寮の申請)は全てウェブ上で登録し、その後政治大学から要求された資料を準備する流れになっています。

私が政治大学へ提出するために大学で準備した資料は、

外国留学許可証

英語の在学証明書

英語の成績証明書

パスポートのコピー

英語で書いた留学志望動機(中国語でも構いません)です。

・査証取得:

私は、査証(ビザ)についての知識が全くなかったため、ここの手続きが一番大変でした。

台北駐日経済文化代表処のホームページを見て、申請先、査証の種類、申請時期、必要書類などを準備しました。

[申請先]

日本で台湾の査証を取得するには、東京、横浜、大阪、福岡、沖縄、北海道の6つの場所しか受け付けていないので注意してください。私の場合は福岡の台北駐大阪経済文化弁事処福岡分処へ申請しました。

[申請時期]

私の場合は、留学開始の2日前まで集中講義があり、直接福岡へ行って申請することができなかったため、JTBが代理に申請してくれるサービスを利用し申請しました。代理を通して申し込んだため、JTBに全ての必要書類を提出し、申請をした時期は7月末でした。2週間ほどで査証を受け取ることができますが、必要書類の準備に時間がかかるので、私は5月から書類の準備を始めました。

代理を通さず、自分で直接申請する場合は申請の次の日に査証を受け取ることができるみたいです。どちらにしても、必要書類が多く複雑なため、こまめに台北駐日経済文化代表処へ連絡をして必要書類を確認する必要があると思います。)

[査証種類]

長期居留査証

[必要書類]

① 申請書

台湾へ査証の申請をするにはまず、台北駐日経済文化代表処のホームページから専用ウェブサイト(<https://visawebapp.boca.gov.tw>)へ行き、ウェブ上での個人情報登録が必要になります。その後、申請書をプリントアウトし、写真などを貼ったり、署名して申請書は完成となります。

② HIV検査を含めた健康診断証明書(3ヶ月以内に診断されたもの)

この検査も指定の書類があります。

↓こちらから書類をダウンロードして、この中に含まれている項目を全て病院で検査してもらってください。

～宮大生のための交換留学～

<http://www.taiwanembassy.org/public/Data/231313383671.doc>

この検査は普段しないような検査がたくさん含まれており、宮崎でこの全ての検査をできるのは宮崎東病院だけだったと思います。なので、検査項目を病院に伝え、検査できるようならば早めに予約して、検査してもらう必要があります。結果をもらうまでに2週間ほどかかるので6月初めくらいに健康診断へ行かれることをおすすめします。

※また、留学先の大学からも大学に提出する用の別の健康診断書をもたらうので、この2種類の健康診断を同時に行いましょう。

- ③ 旅券(申請時に残存期限が6ヶ月以上あるもの)
- ④ 写真2枚(4cm×5cm 申請日前6ヶ月以内に取ったもの)
※写真は大学に提出する際の資料や、台湾で居留証を申請する際、寮の申請など、全ての手続きに必要となるので、たくさん撮って台湾にも持って行くことをおすすめします。また台湾では背景が青い写真は受け付けてもらえないときがあったので、背景が白の写真を準備しておいてください。
- ⑤ 留学先の学校の入学許可書原本とその写し1通
※入学許可証の原本は、留学先の大学に交換留学を申請した約1ヶ月後に郵送で手元に届きます。私は4月末に国立政治大学へ申請し5月に受け取りました。
- ⑥ 査証手数料
(私のように代理を通して申請する場合は、その分の手数料も準備してください。)
- ⑦ 留学費用証明(銀行残高証明など)
※私の場合は、交換留学先の大学附属の語学学校で1年間中国語を勉強する予定だったので、語学研修査証の申請に必要な留学費用証明も提出しました。語学学校ではなく、大学の授業をとる場合にもこの資料が必要かどうか、各自で確認してみてください。

※注意: 以上が留学開始前の日本での手続きになります。

台湾では1人ひとりが居留証というカードを持つことが義務付けられているので、台湾に着いたらまず、居留証の申請をする必要があります。居留ビザで台湾に入国後、15日以内に居住地の内政部入出国及移民署所属のサービスセンターで外僑居留証を申請してください。申請後約2週間で受け取ることができます。この手続きが、留学生活の中で一番重要な手続きになります。絶対に忘れないでください！！

※留学に必要な全ての書類は、全てコピーして写しを控えておかれることをおすすめします。

○留学体験記:

[生活費]

・渡航費: 約 40000 円(片道の飛行機代)

・寮費

(前期分 9 月～2 月): 約 50000 円

(後期分 3 月～6 月): 約 40000 円

(夏休み 7 月～8 月): 約 28000 円

※入る寮によって値段が少しずつ違うようです。私の寮は他の寮に比べたら少し古くて設備もあまりよくなかったので、少し安めでした。

※台湾の正月の春節の時(4 日程)は寮が閉鎖されるので、また新たに寮の申請と引越しが必要になります。私は台湾人の友達の家でお世話になったので、この期間は利用してません。大体の留学生はこのとき旅行に行き、寮にいませんでした。

・国民保健半年分: 約 12000 円

・食費: 1 日約 1000 円(約 300 元)

※1 元(台湾元) = 3.4 円で計算

～宮大生のための交換留学～



夜ご飯
自助餐（台湾版ビュッフェ）
約 80 元～100 元

[寮の環境]

・4 人部屋（私は韓国人 3 人とルームメイトになりました。）

※同じ国籍ごとに同室や近い部屋になりますが、それでも色々な国から来ている留学生と同室になったりするのでとても国際的な雰囲気寮です。留学生は大体留学生同士で同じ部屋になっていました。なので、寮では現地の学生との交流はあまりありませんでした。

私は入寮初日、韓国人 3 人と同室だと知りとても不安になりましたが、毎日とても楽しく仲良く生活できました。最初の 3 ヶ月ほどはお互いにルームメイトとのコミュニケーションがとても大変でしたが、中国語・英語・韓国語を同時に勉強できる環境だったので、今ではとても幸せに感じています。部屋を変更したいときは、申請すれば変更できます。



私のルームメイト
3 人の韓国人

・ベット、机、本棚、ワードローブ、棚2つ、扇風機、エアコンがあります。（エアコンはお金がかかるので、ルームメイトでエアコン代を割り勘しています。4 人で 500 元のエアコンカードを買い、大体 3 ヶ月分使えました。）



寮の部屋

・各階のブロックごとに共同のシャワールーム、トイレ、洗面台、洗濯機、乾燥機、お湯と冷水が出る機械、勉強部屋、テレビルームがあります。（※洗濯機・乾燥機は、それぞれ1回 10 元）

・キッチンがないので3食全て外食になりますが、台湾は外食産業が発達していていつでもどこで

～宮大生のための交換留学～

も安くおいしい食事ができるので、一度も不便には感じませんでした。(しかし、油をたくさん使った料理が多いせいか、私はこの1年間で8キロほど太りました。)

・私の住んでいる寮はキャンパス内の山の上にあるので、正門から歩いて20分ほどかかります。大学内には片道1元のシャトルバスも走っているのですが、あまり不便ではありません。バスだと寮まで3分ほどで到着します。

・私の住んでいた寮の1階はフードコートみたいになっており、安くおいしいお店がたくさんありました！生活用品が何でもそろっている売店もそこにあり夜9時まで営業しています。コンビニやカフェも隣の寮にあるので、とても便利です。

[大学の環境、生活環境]

大学の中に山と川があり空気がとてもきれいな大学です。川沿いにはきれいな自転車道路がありその道を通って台北の市街地へ行くことができます。台北では、MRT、バス、自転車、タクシーなどとても安く利用できる交通手段がたくさん発達しているので、移動は何の不自由もありません。大学は、MRT 動物園駅からバスで5分、歩いて20分ほどの距離にあり、都会の真ん中過ぎず、郊外すぎず程良くなんでもそろっていて、交通の便もいいところに立地しています。(台北101までバスで20分、公館までバスで40分、忠孝復興までMRTで25分、台北駅までバスで1時間・バスとMRTで40分ほどです。)

大学内には大きな講義棟がたくさんあり、平日週末を問わずサークル活動や勉強をしているたくさんの学生であふれています。運動場やジムなどは地元の人でも利用しており、常にたくさんの方が往来しています。大学の中や周辺には外食レストランやカフェ、生活必需品販売店、書籍購買店などがそろっておりとても便利で快適な感興が揃っています。



手前：運動場
左手前：体育館
左奥：講義棟
右奥：事務手続きのビル
(交換留学の事務室もここに 있습니다。)



寮や華文中心へ行く道(屋根付きの歩道があるので、雨の日も日差し強い日も安心です。)
横には川が流れています。
奥に見えるのは、片道1元のシャトルバスです。

[授業の様子]

華文中心では、新学期の始まる前に中国語の試験を受けます。その結果によってレベル別のクラスが編成されます。全部で20クラス程あるので自分のレベルに適したクラスで授業を受けることができます。クラスは6人～9人と小さなクラスです。私のクラスはどの学期も7人～8人のクラス

～宮大生のための交換留学～

で、ドイツ・韓国・アイルランド・トルコ・アメリカ・タイ・マレーシア・フィンランド・イギリス・ポーランド・ロシア・カナダ・インドの学生達とクラスメイトになりました。この語学学校には本当に色々な国から様々な年代の学生が留学しに来ているので本当に国際色豊かな語学学校です。

先生の中国語を教えるレベルは本当に高く、学生1人1人のレベルや性格に応じた対応で親身になって指導して下さいます。私自身、この21年間で先生との距離を一番近くに感じる事ができたのが、この学校です。授業は全て中国語を使って行われ、教科書に沿って討論形式で授業が進められます。先生の準備して下さる教材や授業内容はとても豊富で飽きたり、中国語が難しいと感じた日は1度もありませんでした。先生によって違いますが、大体毎日単語テストや宿題があります。教科書の小テストやプレゼンテーションなども毎週1回はあるので、中国語のリスニング力とスピーキング力もかなり鍛えられます。単語や文法の勉強などは、一人でどんどん予習していきました。



3 学期の先生と
クラスメイト

[他の留学生たちの様子]

語学学校には約200人～300人の留学生がいます。それぞれ韓国人50人・日本人20人・欧米100人、その他といった感じです。寮もクラスもとっても国際的なので、中国語と英語の勉強が同時にでき一石二鳥です。また、他の言語に興味があれば、その言語を母国語とする留学生と友達になり、言語交換をすることができます。目的・目標次第で何カ国語も勉強できる素晴らしい環境だと思います。私の場合は、アメリカ人・タイ人の友達と英語の言語交換を、韓国人の友達と韓国語の言語交換をしていました。

欧米からの留学生は大多数がアパートやIhouseに住んでいます。

※Ihouseとは、寮より高くアパートより安く住むことのできる大学の宿泊施設で、留学生だけが住むことができます。1人部屋、2人部屋から選択でき、寮の設備に加えてキッチンも揃っています。

[現地学生との交流]

政治大学は朝から夜までとてもたくさんの学生で賑わっています。私の場合は、サークルに入ったり、言語交換をすることで現地の学生と交流しています。みんな授業にも部活にも全力で打ち込んでいる姿が印象的です。



よく仲良くしてくれた現
地の日本語学科の学生

～宮大生のための交換留学～

私がこの留学で一番誇りに思えることは、様々な国の留学生と深い友情を築くことができ、彼らとの交流を通して私自身の考え方が 180 度変化したことです。ここには、国も年齢も全く違う留学生がそれぞれの目標をもって留学に来ています。大学生は 4 割ほどで、その他の留学生は一度社会人を経験しているような年齢の人たちばかりです。そのような友達から各国の生活環境、文化や歴史、言語、考え方や宗教、政治経済など多岐に渡るテーマを紹介してもらいたくさん討論しました。もちろん、私も他の国の友達に日本について紹介する機会がたくさんありました。私自身、留学前には日本についてそれなりに知識を持っていて、日本を紹介できる自信がありました。他の留学生と討論すればするほど私の考え方は、まだまだ単純で、物事の一面しか捉えておらず、未熟であることを痛感させられました。日本では当たり前と感じていたことが、いい意味でも悪い意味でも世界では通用しないということを初めて身に沁みて感じました。

「相手の文化や考え方を理解し認め、お互いに尊敬し合える関係を築くことが、より良い国際関係を築く上で一番大切である。」というような言葉を、誰しも一度は学校で学んだことがあると思います。私は留学前、この言葉の意味をきちんと理解していて、どんな学生ともすぐに友達になれる自身がありました。実際友達になるだけだったら、何も問題はありますが、他国の友達と深い友情を築き、本当に相手を理解しようとしたら、私の今までの考え方は何の役にもたちませんでした。彼らによって私のこれまでの考え方は根底から揺るがされ、様々な刺激を受ける中で、私は相手を理解する上で何が正しいのか分からなくなり、自分自身と何度も葛藤しました。相手を理解するために、先述の言葉の意味を正確に理解し的確な行動をすることが、どれほど難しいことか、自分の考え方に自信が持てなくなることが何度もありました。しかし、色んな友達との交流を通して少しずつ、どのように相手と接するべきか、相手を理解するべきか、ヒントをもらったような気がします。

言語学習を通して意思疎通ができるようになることは、国際社会、異文化を理解するためのスタート地点に立っただけです。

そこから、その共通言語を用いて、お互いに理解するために歩み寄っていく姿勢と努力が、国際平和、国際理解への何が正しいのか正解のない、長い長い模索の旅の始まりであると思います。「相手を理解するとは何か」、「心から尊敬しあうとは何か」、「理解しあえた後には、どんな光景が広がっているのか」私自身まだ答えは見つかっていません。

しかし、この留学を通して出会えた最高の仲間と彼らとの友情の絆は、私の最高の財産になりました。これからもずっと、彼らとお互いに学び合い、刺激を与え与えられ続ける関係を維持していきたいです。



授業後、先生へ質問する風景

～宮大生のための交換留学～



単語暗記のためのゲーム
と
作文の練習

○帰国後について

- ・派遣先で単位を取得しましたか？(しなかった)
- ・派遣先で取得した単位は宮崎大学で認定されましたか？(されなかった)

○今後、留学を希望する宮大生のみなさんへ

海外に興味のある方、色んな人と交流するのが好きな方、新しい自分に出会ってみたい方。ぜひ世界を相手に自分の考えを伝え、日本についてあらゆる面からとことん発信してください。世界への扉はだれにでも開かれています。躊躇することなく、新しい世界へ飛び込んでみてください。そこでは、きっと一周りも二周りも成長することができ、かけがえのない財産をたくさん手に入れることができるはずです。

なぜ留学するのか、きっかけがどんなに小さなことでも、どんなに小さな理由でも、自信がなくても構いません。終わった後には、きっと、この経験をしなければ見ることのできなかつた世界、自分の進みたい道、新しい自分に出会えるはずです。

ぜひ勇気を出して、新しい一歩を踏み出してみてください。

～宮大生のための交換留学～



いつも夜ご飯の後、みんなでここに集合し、いつまでも語り合いました。留学生は毎日ここに集まって交流しています。



クラスメイトと先生とよく一緒に夜ご飯を食べに行きました。



いつも外食では飽きるので、たまにはみんなで集まって、キッチンのある友達の家でみんなで一緒にご飯を作り食べました。毎回それぞれ担当して、自分の国の料理を作り、食べてもらいました。



日本人留学生の女子のメンバーです。何かあったら、すぐに誰かに相談するくらい仲が良かったです。